
[総合地域研究所 平成27年度「共同研究」報告]

佐倉市との地域連携事業に向けての試み

代 表：村川 庸子 (敬愛大学国際学部教授)
研究分担者：山本 健 (敬愛大学国際学部教授)
田口 功 (敬愛大学国際学部教授)
高田 洋子 (敬愛大学国際学部教授)
山口 政之 (敬愛大学国際学部准教授)
田中 未央 (敬愛大学国際学部専任講師)
佐藤 佳子 (敬愛大学国際学部専任講師)

1 共同研究の目的

佐倉市は敬愛大学国際学部揺籃の地である。1990年4月に千葉敬愛短期大学国際教養科が設置され、97年4月、敬愛大学国際学部国際協力学科に改組された。以後、2009(平成21)年4月に稲毛キャンパスに移転するまで、緑豊かな佐倉キャンパスで伸び伸びと過ごさせていただいた。一部の教員が市や団体にお世話になることはあったが、キャンパスは四街道市との境の田園地帯に位置し、佐倉市の中心部から離れていて、一般の教員や学生が「佐倉」を知る機会を十分にもつことができなかったことが悔やまれる。移転後は我々教員が足を運ぶ機会も少なくなり、現在の在學生は、国際学部が元は、佐倉にあったことさえ知らない。

2015年2月17日、佐倉市と連携協力に関する包括協定が締結され、今後、新たな関係性の構築が期待されている。私は当時、総合地域研究所長として、連携協定に向けた準備に当たり、佐倉市役所を訪れて、市側担当者とのような共同作業が可能かについての打合せを行った。その過程で、この連携協定をできるだけ実のあるものにしたと思うに至ったのは、やはり、佐倉キャンパスで過ごした日々があったからだと思われる。共同研究「佐倉市との地域連携事業に向けての試み」の着想は、こうして生まれた。国際学部の教員を中心に、学生も交え、の目的は、①に「地域貢献」であるが、同時に、②我々教員が学び、③学生にとっても学びの機会にすることを目指した。

2 共同研究の概要と計画

佐倉市は、かつては「西の長崎」と並び称され、幕末から明治にかけて西洋文化の花開いた場所である。開国時の老中堀田正睦(蘭癖とあだ名された積極的開国論者)を始めとし、順天堂の佐藤泰然、次男の良順(初代陸軍軍医総監)、五男の林薫(外務大臣)や津田梅子の父である農学者津田仙、女子美大の基礎を築いた佐藤志津など、数多の人々が日本の近

代・現代の歴史を彩っている。数名の先生方と話し合った結果、次の2つの事業が浮かび上がった。

(1) 津田仙研究(教員・学生対象)

津田仙は佐倉藩の農学者でキリスト者。津田塾大学を創立した津田梅子の父親である。佐倉藩の藩校である成徳書院で学び、オランダ語・英語の他、洋学や砲術を学び、後に江戸へ出て蘭学塾に入門、森山栄之助の下で英語を学ぶ。慶應3年には軍艦引き取り交渉のため通訳としてアメリカに派遣される。学農社を創立、青山学院大学・筑波大学附属盲学校の創立にもかかわる。日本で最初に西洋野菜の栽培を手掛け、日本で最初種の通信販売を行った人物でもある。新島襄、中村正直とともに「キリスト教界の三傑」と呼ばれている。敬愛大学には筆者を含め津田塾大学出身の教員が多いが、仙については殆ど知らなかった。佐倉市では一年に一度、小学校の給食で「津田仙」メニューが供せられているという。佐倉市のHPでは佐倉東小学校の「総合(佐倉学)指導モデル案」として次の一文が見られる。

津田仙の功績は、西洋野菜の栽培に止まらず、近代農業の発展、足尾鋇毒問題、近代学校の設立、キリスト教の布教等幅広く及んでいる。その根本には、深い人間愛があり足尾鋇毒事件で田中正造などを支援したのも、農民に対する深い愛情の賜であると思う。仙は、新しい事柄に積極的に挑戦しようとする勇氣があり、梅子を外国に送ったのも自分が体験した西洋の文化を梅子をとおして日本に伝えたいという思いからであった。ここにも、佐倉の『好学進取』の気風をみることが出来る。…(中略)…農業の振興は、政治に比べて注目度は少ないが、日本の食を支える大きな功績であることは間違いない。佐倉からそのような人物が出たことを私たちは誇りにしたい。

(<http://www.city.sakura.lg.jp/cmsfiles/contents/0000004/4187/shou6tudasenn.pdf>)

(2) 佐倉市の街歩き「佐倉を知り隊」プロジェクト(対象:主として学生)

先述の通り、佐倉市は国際学部揺籃の地であるにもかかわらず、佐倉の歴史や文化について学内でもあまり知られていない。今後展開していく地域連携の第一歩として、まず佐倉を知ることから始めたい。対象は次の4種の学生である。①一般の学生:散策と「街歩き地図」作り、②英語の学習を希望する学生:調査事項をまとめて英訳し、後にネイティブの先生に参加していただきボランティアガイドを体験、③留学生:「日本」をより深く知る。母国語で情報を発信する、④より深く知りたい学生:地元の人々との交流を図る。

尚、佐倉市企画政策部企画政策課の平岡和美氏、上野裕子氏、水土ネット印旛沼の高橋修氏、国立歴史民俗博物館原山康介氏(本学非常勤講師)他に研究支援を依頼し、ご快諾いただいている。尚、平岡氏にはお忙しい中、「佐倉まち歩きマップを作ろうプロジェクトコース案」も作成し、11月14日のまち歩きで案内方もとっていただいた。

1. 武家屋敷～佐倉城址公園～国立歴史民俗博物館
2. 旧堀田邸～市立美術館(あるいは塚本美術館)～武家屋敷
3. 佐倉ふるさと広場

の3つのコースが示されている(章末資料参照)。

3 本年度の主たる活動実施状況

本年度の佐倉市関係の主たる活動は次の通りである。

(1) 6月20日 総合地域研究所シンポジウム

佐倉市役所から数名がシンポジウムに参加していただいた。後日平岡氏からのお礼状に「先生御自慢の講師の皆様、おっしゃるとおりすばらしかったです！ 一つ不満があるとするれば、もっともっと聴きたかったということくらいです。地に足が着きながらも夢のある、視野の広いお話の数々で、つい日々の業務で後回しにしがちな夢を思い出させていただきました。……皆、自分でできそうなことや、やりたいことのヒントを頂戴したようです。ひとまず、今治には行かなくちゃ、と思っております」とあった。後に、佐倉市の市議員の方が、今治まで視察に行かれたとも聞いている。シンポジウムが地元で直接的に情報提供の機会になったことを嬉しく思った。



展示内容を舞台上で発表する
(突然の指名だったが堂々と発表できました)

(1) 10月25日 印旛沼流域環境・体験フェア

今年も印旛沼流域環境・体験フェアに参加した。2010年度から印旛沼のほとりで開催されている催しで、昨年は洪水で中止となったが、本研究所で助成していただいていた「アグリ」関係の共同研究で4回続けて参加している。活動を開始した当初から支援をいただいている水土里ネット印旛沼の高橋修氏の「印旛沼にカルチュラタンを」の言葉通り、参加する大学・高等学校の数は年々増加している。「理系の大学・高校ばかりでなく、人文社会系の大学にも参加して欲しい」と言われて、「アグリ」やスクーリングの活動報告を行った。今年も国際学部の学生が二人、卒業生が1人、お子さんを連れて参加してくれた。他大学や団体の、環境や農業、食品関係の実験や製品を並べたブースに比べると、集客力の無いブースではあったが、学生たちは積極的に他大学や高校、様々な関連団体の情報に触れあう機会をもってくれたように思う。



ブースにて：「お客さん、来ないねえ」



卒業生もお子さんと駆けつけてくれた

(3) 11月14日 佐倉の街歩き

村川の都合で遅れていた、佐倉の街歩きが漸く実現した。土曜日、肌寒い雨の中であつたにもかかわらず、6人の学生さんと、佐倉市役所の平岡さん、研究所長の藪内先生が参加してくれた。京成佐倉駅でまず平岡さんから佐倉市に関するパンフレット等を受け取り、街歩き開始。武家屋敷、市立美術館、旧堀田亭を回る。先述の、平岡氏に提示していただ

いたプランの2番目に当たる。

武家屋敷：佐倉の面影を残す土塁と生垣の通り沿いに、旧河原家住宅、旧但馬家住宅、旧武居家住宅の3棟が並んでいる。江戸時代後期のものと伝えられ、それぞれ上級、中級、下級武士の住居であったと説明される。建物内の見学も可能である。佐倉キャンパス時代に寮があった場所に近い。写真は旧河原家住宅である。木造の日本建築は学生にとっては本当に珍しいらしく、雨戸や雨戸袋、濡れ縁やトイレの汲み取り口、自家用のお茶の木、「難を転ずる」と言われて正月などに欠かせない南天の庭木にまで驚きの声を上げていて微笑ましい。

- ①市立美術館：城下町の中心に位置する美術館に立ち寄った。正面のエントランスは1918年に旧川崎銀行佐倉支店として建設されたという美しい建物で、カフェで昼食を済ませる。市内在住の画家高橋真琴先生の絵を鑑賞することになっていたが、偶然、高橋先生とお会いし、一緒に写真を撮影させていただく。執筆者の世代には『よいこ』『マーガレット』の表紙の挿絵で馴染みのある絵が数多く展示され、壮観であった。

- ②旧堀田邸：最後の佐倉藩主、堀田正倫が1890年に建てた邸宅と庭園。玄関棟、座敷棟、書斎棟など7棟が国の重要文化財(建造物)に指定されている。数時間、歩き通しで、かなり疲れた様子であったが、ボランティアの方の詳しいご説明に励ま

されて見学を行った。伝統的な和風建築の工法と、ボルトやナットを使用した西洋建築の工法が混在している、との説明であったが、西洋風の建築が入ってきた時、一般的には洋館が建てられるのが一般的だったとのことで、この建物のように、完全な和風住宅の随所(襖や天井に西陣織やジャワ更紗などの布が使用される、等)に織り込まれた物は珍しいとのこと、また資材は日本各地の銘木を集め、東京で加工し、建築も東京の職人が行ったとのことであった。

堀田正倫はまた、屋敷に隣接する土地に私設の農事試験場を造るなど、この土地の農業と教育にも尽力した。堀田邸の一角に、試験場の建物や田植えをする人々の様子を伝える写真などが展示されている。この私設農事試験場は、県の試験場ができてそ



武家屋敷



市立美術館にて



堀田邸の玄関棟で

の役割を終えるまで続いたと言われる。堀田正睦から正倫まで、幕末から明治にかけての藩主の生き方に心惹かれるものがある。

堀田邸は小高い丘に位置し、かつては周辺の田園風景を一望できたというが、今は木々が茂ってこの眺望が失われてしまった。だが、周辺の近代的な建物が木々に遮られて見えず、広大な庭園は様々な時代劇の撮影などにも使用されているという。

4 本年度の活動についての反省と今後の課題

以上、本共同研究の目的、概要と計画、実施状況について簡単に述べてきた。ただ、本年の研究については、いくつかの事情で、計画通りの進行ができず、来年度に向け準備を進めるに留まった。先述の事情とは、①昨年の6月頃から報告者が坐骨神経痛に悩まされ、週末毎に整骨医に通う状態が続いたこと、②夏に報告者の近親者が急逝したことと学生の海外スクーリングの引率が重なり、公私に忙殺されたことにより、活動を本格化させることができなかった。③学生の活動の母体とする予定であった、国際学部の「実習特殊I」科目の履登録に原因不明の不都合があり（最初の1人が登録した後、登録が出来なくなっていた）、活動は、「単位はなくても行ってみたい」と希望してくれた10名ほどの学生に頼ることとなった。

但し、今後につながる二つの出来事があった。

一つは佐倉市の依頼で、8月14日と16日に行われた北京での世界陸上に参加するベルギー、アメリカ・チームの事前の公式練習や地元の子供たちとの交流会に本学の学生が通訳ボランティアなどで参加したことである（写真の掲載は制限されており、詳細は本学HP参照）。初めてのことで、連絡ミスなどもあったが、会場で積極的に動いてくれた学生もあり、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、国際学部の学生の英語の学習にはずみをつける経験になってくれればと期待している。

もう一つは最近、日本のあちこちで開催され、話題になっている稲藁の「イノシシ」作りに向けた動きである。そもそもは、研究所のシンポジウムの時、今治市からお招きした講師からうかがった話がきっかけになったが、調べてみると北は北海道音更町から南は熊本県高森町まで全国10ヵ所で同じような催しに取り組んでいる。近くて有名なのは、新潟市西蒲原区や行田市か。先述の水土里ネットの高橋さんや市役所企画政策課の上野さんに相談し、「いいね」を受けて、場所、稲藁、人手までは何とか確保のメドがついた。「イノシシ」は害獣だから、「ナウマン象」の方が、というお話もでた。最後にこの稲藁アートの発案者である武蔵野美術大学（小平市）基礎デザイン学科の宮島慎吾先生にもお話をうかがいに行った。「農村を元気に」という宮島先生の思いは確実に広がっている。それは「学生を元気に」にもつながるはずだと思われる。経費は確かに問題だが、再度の挑戦を試みたい。

（資料）

佐倉市佐倉市企画政策部企画政策課

平岡和美氏ご提案の「佐倉まち歩きマップを作ろうプロジェクト コース御案」

1. 武家屋敷～佐倉城址公園～国立歴史民俗博物館

【京成】距離：3.9km 所要時間：3時間18分 [歩く48分、見る2時間30分]

京成佐倉駅 → [1.7km 22分] → 武家屋敷 30分 → [1km 10分]

→ 佐倉城址公園～国立歴史民俗博物館 120分 → [1.2km 16分] → 京成佐倉駅

【JR】（距離：4.7km 所要時間：3時間27分 [歩く57分、見る2時間30分]）

JR佐倉駅 → [1.2km 15分] → 武家屋敷30分 → [1km 10分]
 → 佐倉城址公園～国立歴史民俗博物館120分 → [2.5km 32分] → JR佐倉駅
 ※土曜日なら、武家屋敷にボランティアガイドがいます。
 ※歴博から京成佐倉駅及びJR佐倉駅間は、バス路線もあります。

http://www.chibagreenbus.co.jp/rosen/pdf/other/oth_03.pdf

2. 旧堀田邸～市立美術館（あるいは塚本美術館）～武家屋敷

【京成】距離：5.5km 所要時間：3時間13分 [歩く1時間13分、見る2時間]

京成佐倉駅 [1.9km 25分] → 旧堀田邸45分 → [1.1km 15分] → 塚本美術館（あるいは市立美術館）45分
 → [0.8km 11分] → 武家屋敷30分 → [1.7km 22分] → 京成佐倉駅
 ※京成佐倉駅から旧堀田邸までと、武家屋敷から京成佐倉駅までは、途中でバス路線もあります。

【JR】距離：4.4km 所要時間：2時間59分 [歩く59分、見る2時間]

JR佐倉駅 [1.4km 18分] → 旧堀田邸45分 → [1.1km 15分] → 市立美術館（あるいは塚本美術館）45分
 → [0.8km 11分] → 武家屋敷30分 → [1.1km 15分] → JR佐倉駅
 ※土曜日なら、武家屋敷にボランティアガイドがいます。
 ※塚本美術館は土曜日はお休みです。
 ※武家屋敷からJR佐倉駅までは、バス路線もあります。

3. 佐倉ふるさと広場

【京成】（距離：7.8km 所要時間：2時間40分 [歩く1時間40分、見る1時間]）

京成佐倉駅 → [3.9km 50分] → 佐倉ふるさと広場・農産物直売所60分 → [3.9km 50分] → 京成佐倉駅
 ※京成佐倉駅前の観光協会では、レンタサイクルの貸し出しも行っています。

料金：普通自転車1台500円、電動アシスト1,000円。

※お昼ごはんは、各自持参して途中で召し上がることもできますし、歴博や市立美術館、あるいはコースの途中にもお店があります。

（その他参考）

佐倉の散策コース紹介 <<http://www.city.sakura.lg.jp/0000004030.html>>

ボランティアガイド 佐倉一里塚（NPO）<<http://sakura-ichirizuka.jimdo.com/>>

むらかわ・ようこ Yoko Murakawa
 やまもと・たけし Takeshi Yamamoto
 たぐち・いさお Isao Taguchi
 たかだ・ようこ Yoko Takada
 やまぐち・まさゆき Masayuki Yamaguchi
 たなか・みお Mio Tanaka
 さとう・けいこ Keiko Sato